



Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーション コ ンフィギュレーション ガイド

最終更新 : 2025 年 6 月 5 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 : シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間 : 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED “AS IS” WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章	はじめに 1
	Cisco Spaces : プロキシミティレポート アプリの概要 1
	レポートの作成 1
第 1 部 :	レポートの各部 5
第 2 章	プレゼンス、影響、および場所 7
	プレゼンス 7
	ロケーションサマリー (Location Summary) 7
第 3 章	プロキシミティレポート 9
	近接サマリー 9
	プロキシミティ トレース レポート 10
第 4 章	日次プロセスレポート 13
第 5 章	Users 15
	App Users 15
	アプリユーザーの作成 15
	ユーザーとユーザー ロールの変更 16
第 6 章	通信、サービス、およびその他の情報 17
	通信、サービス、およびその他の情報 17
	シスコのバグ検索ツール 17

マニュアルに関するフィードバック	17
------------------	----



第 1 章

はじめに

- [Cisco Spaces : プロキシミティレポート アプリの概要 \(1 ページ\)](#)

Cisco Spaces : プロキシミティレポート アプリの概要

Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーション は、コロナ禍の後に職場に戻る従業員のために、企業ネットワークの職場管理者が安全な環境を作成することを支援します。アプリは、1 人の人物に属する 1 つ以上のワイヤレスデバイスからデータを収集します。ワイヤレスデバイスは、ワイヤレスネットワークに関連付けられ、物理的な場所にマッピングされる必要があります。プロキシミティ レポート アプリケーション は、検査で陽性だったと報告した人物の動きを追跡するために機能します。

プロキシミティ レポート アプリケーション の主要機能のいくつかは、次のとおりです。

- 設定可能な期間（通常は 14 ～ 28 日）に感染者がいた物理的な空間を把握するのに役立ちます。
- 感染者と同じ拠点にいた他の人物のリスト。
- 感染者がいつ物理的な空間に出入りしたかを示すタイムライン。

レポートの作成

このセクションでは、陽性であると報告した人物をルックアップする方法について説明します。プロキシミティ レポート アプリケーション の一般的なワークフローの全体を説明し、レポートの生成方法を示します。ワークフローでは、従業員は自分自身のことを会社に報告し、陽性である可能性があることを明らかにする必要があります。この従業員は、以降、「報告者」と呼ばれます。報告者は、IEEE 802.1x ユーザー ID、使用しているデバイスの MAC アドレス、および従業員が最後にキャンパスを訪れた推定日付を明らかにします。

始める前に

このワークフローに関する想定および前提条件のいくつかは、次のとおりです。

- Cisco Spaces ACT ライセンスおよび Cisco Spaces : Detect and Locate のアクティブなサブスクリプションがある。
- ネットワークに Cisco Catalyst アクセスポイントが装備されている。
- 会社の従業員は、複数のワイヤレスデバイスを使用して企業ネットワークに関連付けている可能性がある。従業員は、会社のキャンパスのワイヤレスネットワークに関連付ける複数の IEEE 802.1x ユーザー ID を持っている可能性もある。
- デバイスのトラブルシューティングまたは安全のために位置情報にアクセスすることが、従業員によって許可されている。

手順の概要

1. Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーションにログインし、[Create Report] をクリックします。
2. [Search User Name or Mac Address] フィールドに、次のいずれかを入力します。
 - 報告者の IEEE 802.1x ユーザー ID (図 1)
 - この人物のデバイスの MAC アドレス (図 2)
3. [Lookup] をクリックします。
4. 手順 2 で入力した内容に応じて、次の手順を実行します。
 - 最大 2 つの IEEE 802.1x ユーザー ID を確認します。
 - 関連付けられたデバイスの MAC アドレスを確認します。
5. [OK] をクリックします。
6. 希望する [Device Type] をオンにします。これにより、選択した [Device Type] に基づいて、レポートデバイスに近接しているデバイスの最終レポートがフィルタ処理されます。
7. [Report Level] コントロールをドラッグして、レポートデバイスへの近接度を設定します。レポートデバイスの選択された近接度内にあるデバイスのユーザー名または MAC アドレスのみが、最終レポートに表示されます。
8. (任意) [Filter noisy data] チェックボックスをオフにします。
9. レポートを作成するには、[Start Date] と [End Date] を入力します。範囲が 28 日以内であることを確認してください。
10. [Generate Report] をクリックします。

手順の詳細

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーションにログインし、[Create Report] をクリックします。
- ステップ 2** [Search User Name or Mac Address] フィールドに、次のいずれかを入力します。

- 報告者の IEEE 802.1x ユーザー ID (図 1)
- この人物のデバイスの MAC アドレス (図 2)

ステップ 3 [Lookup] をクリックします。

ステップ 4 手順 2 で入力した内容に応じて、次の手順を実行します。

- 最大 2 つの IEEE 802.1x ユーザー ID を確認します。
- 関連付けられたデバイスの MAC アドレスを確認します。

(注)

- プロキシミティ レポート アプリケーションでは、表示される結果は、結果の数に基づいて自動選択されます。結果に最大 2 つの IEEE ユーザー ID または最大 3 つの MAC アドレスが表示される場合は、それらの結果が自動選択されます。
- 最大 2 つの IEEE 802.1x ユーザー ID のみを手動選択できます。
- 任意の数の MAC アドレスを手動選択できます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

大まかな [Lookup Summary] が表示されます。

ステップ 6 希望する [Device Type] をオンにします。これにより、選択した [Device Type] に基づいて、レポートデバイスに近接しているデバイスの最終レポートがフィルタ処理されます。

(注)

少なくとも 1 つのデバイスタイプを選択する必要があります。

ステップ 7 [Report Level] コントロールをドラッグして、レポートデバイスへの近接度を設定します。レポートデバイスの選択された近接度内にあるデバイスのユーザー名または MAC アドレスのみが、最終レポートに表示されます。

生成されたレポートの近接テーブルの列数は、この近接レポートレベルに基づいて増減する可能性があります。

ステップ 8 (任意) [Filter noisy data] チェックボックスをオフにします。

デフォルトでは、このフィルタがオンになっています。選択した時間範囲内で、多くのデバイスが異なるフロアをあまりにも頻繁に移動する場合、データにノイズが多いと見なされます。その場合、フロアレベルで結果が表示されなくなり、代わりに、ビルディングレベルなど、より大きな位置レベルで結果が表示されます。

(注)

現時点では、このフィルタは Meraki データにのみ適用されます。

オフにすると、表示されるレポートには、データのノイズに関係なく、実際の位置レベルでデータが表示されます。

ステップ 9 レポートを作成するには、[Start Date] と [End Date] を入力します。範囲が 28 日以内であることを確認してください。

ステップ 10 [Generate Report] をクリックします。

生成された詳細レポートが表示されます。このレポートは、PDF ファイルまたは CSV ファイルとしてエクスポートできます。

次のタスク

- 詳細レポートを使用すると、報告者との接触によって危険にさらされている人物に通知できます。



(注) レポートの人物のリストは網羅的ではなく、完全なものとは見なすことはできません。

- また、集中的な清掃のためにキャンパスの施設を閉鎖することもできます。

このドキュメントの残りの部分では、この詳細レポートのさまざまな部分について説明します。



第 Ⅰ 部

レポートの各部

- [プレゼンス、影響、および場所](#)（7 ページ）
- [プロキシミティレポート](#)（9 ページ）
- [日次プロセスレポート](#)（13 ページ）
- [Users](#)（15 ページ）
- [通信、サービス、およびその他の情報](#)（17 ページ）



第 2 章

プレゼンス、影響、および場所

レポートは、タイトルと、期間（時間範囲）、レポートデバイス、レポートデバイスへの近接レポートレベル、レポートデバイスに近接するデバイスのタイプなどの選択されたパラメータで始まります。レポートは、CSV 形式または PDF 形式でエクスポートすることもできます。

図 1: レポートヘッダー

My Report February 17, 2021				Export to CSV	Export as PDF
Duration	Devices	Report Level	Device Types		
Sun, Feb 14th, 2021 - Mon, Feb 15th, 2021	Intel Corporate - dc:fx:xx:xx:x7:9c	Same Building	Client BLE		

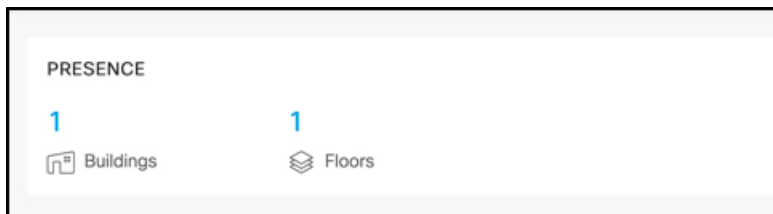
レポートには、次のさまざまなコンポーネントがあります。

- [プレゼンス](#) (7 ページ)
- [ロケーションサマリー \(Location Summary\)](#) (7 ページ)

プレゼンス

レポートのこの部分には、レポート期間中に報告者が訪れたビルディング、フロア、およびゾーンの総数がまとめて表示されます。

図 2: プレゼンス



ロケーションサマリー (Location Summary)

レポートのこの部分には、報告者が特定の期間（日数）に通過した場所の概要が示されます。ロケーション概要には、次の情報が含まれます。

ロケーションサマリー (Location Summary)

- レポートの全期間中に報告者が滞在した総時間。情報には、訪問した各ビルディングと、対応するビルディングの各フロアが含まれます。
- 報告者が滞在した総時間を示す円グラフ。最初の円グラフには、訪問したビルディングごとの情報が表示されます。2つ目の円グラフには、訪問したフロアごとの情報が表示されます。3つ目の円グラフには、訪問したゾーンごとの情報が表示されます。
- 報告者が滞在した時間の1日ごとの直線のかつ視覚的な表現。この情報には、訪問した各ビルディング、ビルディングの各フロア、およびフロアの各ゾーンに滞在した時間が含まれます。

図 3: ロケーションサマリー (Location Summary)





第 3 章

プロキシミティレポート

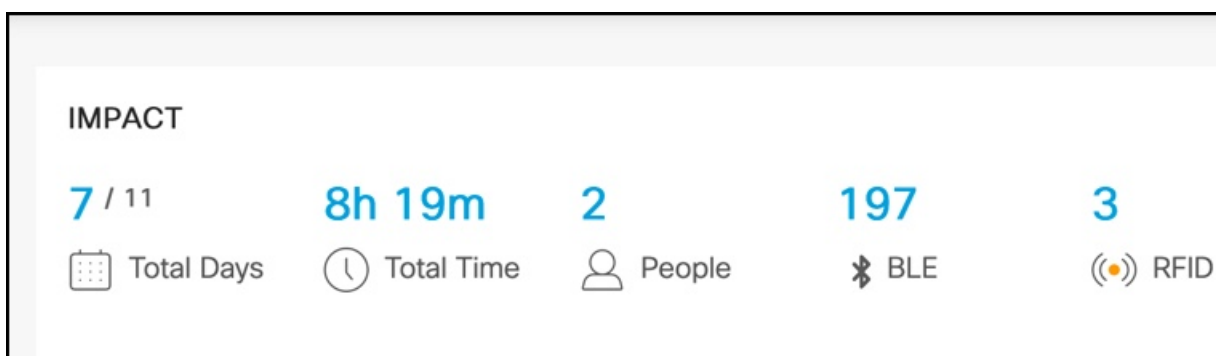
- [近接サマリー \(9 ページ\)](#)
- [プロキシミティ トレース レポート \(10 ページ\)](#)

近接サマリー

レポートのこの部分は、報告者がキャンパス内の他のユーザーに与える影響のサマリー表示を提供します。

- 報告者がキャンパスに滞在した総日数。
- 報告者がキャンパスに滞在した総時間。
- 報告者が接触した総人数。1 人の人物が複数のデバイス（クライアント）を使用している可能性があるため、クライアントデバイスの数は個別に表示されないことに注意してください。
- ターゲットデバイスに近接している BLE デバイスの総数。
- ターゲットデバイスに近接している RFID デバイスの総数。

図 4: Impact



プロキシミティトレースレポート

レポートのこの部分は、報告者と接触した他のユーザーの詳細な履歴です。このレポートは、PDF ファイルまたは CSV ファイルとしてエクスポートできます。このレポートを使用して、報告者の影響を受ける可能性が高いユーザーを特定できます。

詳細レポートでは、人々が置かれている可能性のあるリスクに基づいて、人々が分類されます。

人物のリスクカテゴリを決定するために、次の時間パラメータが使用されます。

- 人物が、報告者に近接した状態で 1 日に 4 時間を超えて過ごした。
- 人物が、報告者に近接した状態で 1 日に 15 分を超えて過ごしたが、それは 4 時間未満である。
- 人物が、報告者に近接した状態で 1 日に 0 分を超えて過ごしたが、それは 15 分以下である。

人物のリスクカテゴリを決定するために、次の距離パラメータが使用されます。

- 人物が、報告者から 30 フィート（または 10 m）以内にいた。
- 人物が、報告者と同じフロアにいたが、報告者から 30 フィート（または 10 m）以内にはいなかった。
- 人物が、報告者と同じビルディングにいたが、同じフロアにはいなかった。

次に、レポートに表示される 1 つのタイプのテーブルの表現例を示します。各セルには人数のみが記載されていることに注意してください。ここに表示される人々の名前は、その人物がテーブルの 1 つのセルでのみカウントされていることを示すためにのみ表示されます。セルは、リスクの最も高いカテゴリがテーブルの左上隅に、最も濃い色で表され、リスクの最も低いカテゴリがテーブルの右下隅に、最も薄い色で表されるように配置されます。

表 1: レポートのテーブルの表現例

	30 フィート以内	同じフロアだが 30 フィート以内ではない	同じビルディングだが同じフロアではない
4 時間を超える	3 (人物 C、D、E (最もリスクが高く、最も濃い色で表される))	1 (人物 F)	1 (人物 G)
4 時間未満 (ただし 15 分を超える)	1 (人物 R)	1 (人物 X)	1 (人物 Z)

	30 フィート以内	同じフロアだが 30 フィート以内ではない	同じビルディングだが同じフロアではない
15 分以下（ただし 0 分を超える）	1 (人物 M)	1 (人物 N)	1 (人物 O（最もリスクが低く、最も薄い色で表される））

2 つ目のテーブルには、人物、デバイスの MAC アドレス、その人物が会社のキャンパスで最後に見られた日時、および報告者との接触時間による詳細なリストが表示されます。

以下に、レポート内のテーブルの視覚的な表現をいくつか示します。テーブルは、いずれかのセルにゼロ以外の値がある場合にのみ表示されます。

• 30 フィート（10m）以内の報告者と 15 分未満の直接接があった

	Within 30ft (10 m)	Same Floor (but not within 30ft (10 m))	Same Building (but not in the same floor)
More than 4 Hours	1	0	0
Less than 4 Hours (> 15 mins and < 4 hours)	87	0	0
Less than 15 minutes (> 0 mins and <= 15 mins)	114	0	0

INTERACTIONS WITHIN 30FT (10 M) FOR LESS THAN 15 MINUTES

User Names	Mac Address	Device Type	Contact Duration
--	5b:b9:e8:1d:ef:1c	BLE	15m
--	61:e6:fb:05:a0:06	BLE	15m
--	67:4f:5b:42:26:ab	BLE	15m
--	08:fb:75:05:b4:89	BLE	14m
--	59:fe:db:57:d3:bd	BLE	14m
--	53:85:19:61:38:63	BLE	14m
--	50:af:50:94:df:47	BLE	14m
--	60:56:2b:b0:fc:11	BLE	14m
--	7f:1f:33:fc:ca:cb	BLE	14m
--	7e:ec:24:f5:83:1a	BLE	14m

• 30 フィート（10m）以内の報告者と 4 時間未満の直接接があった

	Within 30ft (10 m)	Same Floor (but not within 30ft (10 m))	Same Building (but not in the same floor)
More than 4 Hours	1	0	0
Less than 4 Hours (> 15 mins and < 4 hours)	87	0	0
Less than 15 minutes (> 0 mins and <= 15 mins)	114	0	0

INTERACTIONS WITHIN 30FT (10 M) FOR LESS THAN 4 HOURS

User Names	Mac Address	Device Type	Contact Duration
--	00:12:b8:0d:39:22	RFID	3h 44m
--	00:12:b8:0a:3a:8a	RFID	3h 2m
68:37:e9:c4:e4:1e	68:37:e9:c4:e4:1e	CLIENT	2h 43m
--	dc:3f:e1:36:73:7c	BLE	1h 29m
c8:e0:eb:c8:99:fd	c8:e0:eb:c8:99:fd	CLIENT	1h 20m
--	c9:6b:51:a0:de:a2	BLE	1h 15m
--	dc:c9:51:72:cf:47	BLE	1h 13m
--	d9:db:cd:90:aa:87	BLE	1h 13m
--	6c:4a:85:0a:90:8f	BLE	1h 12m
--	40:cb:c0:cc:07:be	BLE	1h 12m

• 30 フィート（10m）以内の報告者と 4 時間を超える直接接があった

	Within 30ft (10 m)	Same Floor (but not within 30ft (10 m))	Same Building (but not in the same floor)
More than 4 Hours	1	0	0
Less than 4 Hours (> 15 mins and < 4 hours)	87	0	0
Less than 15 minutes (> 0 mins and <= 15 mins)	114	0	0

INTERACTIONS WITHIN 30FT (10 M) FOR MORE THAN 4 HOURS			
User Names	Mac Address	Device Type	Contact Duration
--	00:12:b8:0a:c6:48	RFID	5h 55m



第 4 章

日次プロセスレポート

レポートのこの部分は、キャンパスのさまざまなビルディングおよびフロアにわたる報告者の 1 日ごとの行動を、その報告者が各場所に滞在した時間とともに視覚的に追跡します。

図 5: 日単位のプロセス

MAY 28 - THURSDAY		- No Data Available -		
		WITHIN 30 FEET (10 m) & 4 + HRS	WITHIN 30 FEET (10 m) & 15 MINS - 4 HRS	WITHIN 30 FEET (10 m) & ATLEAST ONCE
3:04 PM	10:00PM - 10:30PM Campus 2 > Smith Hall > Floor 2	User Names (2) Bertha Bertha1	User Names (2) Bertha Bertha1	User Names (2) Bertha Bertha1
3:04 PM	12:30AM - 01:00AM Campus 1 > Washington Hall > Floor 1			
MAY 29 - FRIDAY		- No Data Available -		



第 5 章

Users

- [App Users](#) (15 ページ)

App Users

プロキシミティ レポート アプリケーション の左側のナビゲーションウィンドウで、[User Management] をクリックし、[App Users] を選択すると、プロキシミティ レポート アプリケーション ダッシュボード内で定義されているユーザーのリストが表示されます。これらのユーザーは、プロキシミティ レポート アプリケーション の管理者アクセス権または読み取り専用アクセス権を持っている可能性があります。

アプリユーザーの作成

次の手順は、アプリユーザーまたは管理者が Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーション 内から人物をアプリユーザーとして追加し、それらのユーザーに管理アクセス権または読み取り専用アクセス権を与える方法を示しています。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : プロキシミティ レポート アプリケーション の左側のナビゲーションウィンドウで、[User Management] をクリックし、[App Users] を選択します。

ステップ 2 [Add] をクリックします。

ステップ 3 [Email] フィールドに、アプリユーザーとして追加する人物の電子メールアドレスを入力します。

ステップ 4 [Role] ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。

- [ROUser] : アプリユーザーは読み取り専用アクセス権を持ちます。
- [Admin] : アプリユーザーは管理アクセス権を持ちます。

招待電子メールがその人物に送信されます。承認されると、その人物はアプリユーザーとして追加されます。

ユーザーとユーザー ロールの変更

管理者は、[Administrators] タブからアプリユーザーの個人情報を変更できません。管理者は、[App users] タブからのみユーザーロールを変更できます。

アプリユーザーは、[App Users] タブから自分の個人情報を変更できません。



第 6 章

通信、サービス、およびその他の情報

-
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (17 ページ)

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) [英語] にアクセスしてください。
- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support](#) [英語] にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet](#) [英語] にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) [英語] にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

シスコのバグ検索ツール

[シスコのバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

マニュアルに関するフィードバック

シスコの技術マニュアルに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。